



2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月4日

上場会社名 JUKI株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6440 URL https://www.juki.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役会長CEO兼COO (氏名)清原 晃
 問合せ先責任者 (役職名)コーポレートオフィサー財務経理部長 (氏名)南 大造 (TEL)042-357-2211
 四半期報告書提出予定日 2023年8月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の連結業績(2023年1月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	44,770	△23.6	△1,689	—	△1,317	—	△1,541	—
2022年12月期第2四半期	58,577	24.4	1,558	△18.3	1,581	△7.8	846	△30.7

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 880百万円 (△81.8%) 2022年12月期第2四半期 4,834百万円 (61.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	△52.36	—
2022年12月期第2四半期	28.87	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第2四半期	148,506	37,883	25.0
2022年12月期	145,169	37,482	25.3

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 37,115百万円 2022年12月期 36,738百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	127,000	8.1	3,500	22.4	3,000	157.8	1,900	—	64.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名)、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年12月期2Q	29,874,179株	2022年12月期	29,874,179株
2023年12月期2Q	325,771株	2022年12月期	503,016株
2023年12月期2Q	29,447,139株	2022年12月期2Q	29,327,503株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業を取り巻く経済環境、主要市場における政治情勢、為替相場の変動などが含まれます。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

第2四半期連結累計期間における当社を取り巻く事業環境は、AI/IoT/5G/VR等技術革新の加速や、Afterコロナを展望した市場/顧客の変化によるビジネス展開が進展しており、このようなニューノーマルな環境に対応した新しいビジネスモデル/経営基盤の構築が求められています。また“持続可能な開発目標(SDGs)”を受け、長期的な展望で持続可能な社会の実現に向けた取り組みは社会全体で更に加速しております。

一方、物流の混乱は沈静化しつつあるものの、ロシア・ウクライナ紛争の長期化や米中緊張継続による資源高や、世界的なインフレや金利上昇による海外諸コストの高騰、新興国における外貨不足などにより経済活動が制約を受けました。また、異業種の市場参入を含め競争環境も激化しております。

このような事業環境の中、当第2四半期連結累計期間は、欧州、日本は堅調に推移したものの、最大市場である中国、アジアにおける経済復興やサプライチェーン分断によるグローバルな産地移転に伴う投資需要の具体化の遅れ、南アジア等の新興国の外貨不足に起因する購買の先送りなどにより、売上高は447億7千万円(対前年比23.6%減)と大幅な減少となりました。

利益面につきましては、主に工業用ミシンの値上げや物流・生産コスト削減などコスト構造改革に努め、また前年高騰した半導体コストアップの緩和や売上に対する円安効果はありましたが、売上の大幅な減少、工場稼働率の低下に加え海外の材料費や経費等の負担増もあり、営業損失は16億8千9百万円(前年同期は15億5千8百万円の利益)、経常損失は13億1千7百万円(前年同期は15億8千1百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は15億4千1百万円(前年同期は8億4千6百万円の利益)となりました。

下期は、付加価値構造改革を加速し、工業用マシンではアジアでのグローバルな営業体制の強化、成長する新規顧客層の開拓、ノンアパレル・ニット市場での顧客拡大や値上げの浸透、産業装置では新型マウンタや拡大領域分野の強化など、付加価値の高い分野のポートフォリオ改善を図ってまいります。

また、コスト構造改革を更に広範に深掘りし、本社・拠点の徹底したスリム化や、拠点・倉庫の統廃合等、固定費を抜本的に削減することにより売上・利益の挽回を図ってまいります。

上記施策を実行することで、中長期的には2023年から2025年までを計画期間とする中期経営計画の実効性を高め、併せて6つの変革(6X)で事業戦略と体制戦略の変革を強力に推し進めることで、成長戦略の早期実現を図ってまいります。

(主なセグメント別の概況)

①縫製機器&システム事業

工業用ミシンの売上高は、中国、アジアにおける経済復興やグローバルな産地移転による投資需要の具体化の遅れ、南アジア等の新興国の外貨不足の影響などにより売上が減少した結果、縫製機器&システム事業全体の売上高は274億4千8百万円(対前年比30.2%減)となりました。

利益面においては、主に工業用ミシンの値上げや物流・生産コスト削減に努め、また前年高騰した半導体コストのコストアップ緩和や売上に対する円安効果はありましたが、売上の大幅な減少、工場稼働率の低下などにより、セグメント損失(経常損失)は15億3千万円の損失(前年同期は2千5百万円の利益)となりました。

下期は、アジアでのグローバルな営業体制を強化し、ノンアパレル、ニット市場の顧客拡大、スマートソリューション提案等付加価値の高い事業領域の拡大を推進するとともに、コスト構造改革の更なる深掘りにより売上・収益の挽回を図ってまいります。

②産業機器&システム事業

産業装置の売上は、欧米では堅調な設備投資需要を背景に前年比売上を伸ばしましたが、他の地域では伸び悩み、全体の売上は前年比減少しました。一方、国内を中心とした受託加工等のグループ事業の売上は、お客様のサプライチェーン分断への対応など設備投資需要の高まりもあり堅調に推移しました。この結果、産業機器&システム事業全体の売上高は171億5千万円(対前年比10.2%減)となりました。

利益面においては、産業装置における非マウンタ事業の売上減などにより、セグメント損失(経常損失)は1億2千4百万円(前年同期は12億4千6百万円の利益)となりました。

下期は、産業装置では、グローバルな営業体制を強化することで新製品を軸としたライン提案による高速機需要の取り込みを強化するとともに、自動化装置・自動倉庫等付加価値の高い事業領域の拡大をより強力に推進し、またグループ事業ではエンジニアリング事業の受託強化により、セグメント全体の売上・利益の拡大を図ってまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、売上減少に伴い売掛金が減少する一方で棚卸資産が増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ33億3千6百万円増加して1,485億6百万円となりました。負債は、借入金が増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ29億3千5百万円増加して1,106億2千3百万円となりました。純資産は、純損失や配当金支払により利益剰余金が減少する一方で、為替換算調整勘定が増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ4億1百万円増加して378億8千3百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、前回予想値からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,931	5,706
受取手形、売掛金及び契約資産	37,537	34,470
棚卸資産	62,429	67,294
その他	3,151	3,147
貸倒引当金	△373	△478
流動資産合計	107,677	110,140
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,516	10,305
土地	6,317	6,317
その他（純額）	6,692	7,082
有形固定資産合計	23,525	23,705
無形固定資産		
投資その他の資産	2,316	2,379
その他	11,956	12,698
貸倒引当金	△306	△417
投資その他の資産合計	11,649	12,281
固定資産合計	37,492	38,365
資産合計	145,169	148,506
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,145	7,742
電子記録債務	4,113	3,182
短期借入金	58,807	62,724
未払法人税等	547	590
賞与引当金	38	33
契約負債	883	857
その他	8,255	9,399
流動負債合計	81,791	84,529
固定負債		
長期借入金	18,851	19,085
役員退職慰労引当金	39	44
退職給付に係る負債	5,113	5,053
その他	1,892	1,909
固定負債合計	25,896	26,093
負債合計	107,687	110,623

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	1,972	1,894
利益剰余金	15,816	13,687
自己株式	△527	△341
株主資本合計	35,306	33,285
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	482	577
為替換算調整勘定	1,048	3,349
退職給付に係る調整累計額	△99	△97
その他の包括利益累計額合計	1,431	3,829
非支配株主持分	743	767
純資産合計	37,482	37,883
負債純資産合計	145,169	148,506

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年6月30日)
売上高	58,577	44,770
売上原価	42,992	32,572
売上総利益	15,584	12,198
販売費及び一般管理費	14,026	13,887
営業利益又は営業損失(△)	1,558	△1,689
営業外収益		
受取利息	24	27
受取配当金	93	92
持分法による投資利益	18	301
為替差益	18	339
受取手数料	107	47
貸倒引当金戻入益	14	2
助成金収入	26	57
その他	230	221
営業外収益合計	534	1,090
営業外費用		
支払利息	458	680
その他	52	38
営業外費用合計	511	719
経常利益又は経常損失(△)	1,581	△1,317
特別利益		
固定資産売却益	4	3
投資有価証券売却益	—	73
特別利益合計	4	76
特別損失		
固定資産除売却損	13	11
事業構造改革費用	—	※1 41
新型コロナウイルス感染症による損失	※2 235	—
その他	—	2
特別損失合計	249	55
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,337	△1,296
法人税等	424	220
四半期純利益又は四半期純損失(△)	912	△1,517
非支配株主に帰属する四半期純利益	65	24
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	846	△1,541

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	912	△1,517
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△94	95
為替換算調整勘定	3,915	2,141
退職給付に係る調整額	△21	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	122	161
その他の包括利益合計	3,921	2,398
四半期包括利益	4,834	880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,768	856
非支配株主に係る四半期包括利益	65	24

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,337	△1,296
減価償却費	1,549	1,554
のれん償却額	—	7
貸倒引当金の増減額(△は減少)	232	168
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△89	△42
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△65	△45
賞与引当金の増減額(△は減少)	1	△8
受取利息及び受取配当金	△118	△120
支払利息	458	680
為替差損益(△は益)	△91	△124
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	9	7
売上債権の増減額(△は増加)	△2,286	5,427
棚卸資産の増減額(△は増加)	△6,062	△604
仕入債務の増減額(△は減少)	△801	△2,637
その他	△1,844	△2,684
小計	△7,772	279
利息及び配当金の受取額	179	242
利息の支払額	△458	△681
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△827	△440
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,879	△599
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,022	△1,251
有形及び無形固定資産の売却による収入	17	10
その他	27	174
投資活動によるキャッシュ・フロー	△977	△1,067
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	12,855	3,415
長期借入れによる収入	4,860	5,111
長期借入金の返済による支出	△4,944	△5,744
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△729	△545
その他	△347	△307
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,693	1,929
現金及び現金同等物に係る換算差額	837	352
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,674	615
現金及び現金同等物の期首残高	6,566	4,910
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,241	5,525

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法等を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルスの感染拡大による影響に関して、現時点においてこれらの影響を合理的に見積ることは困難ですが、外部の情報等を踏まえ新型コロナウイルスの感染拡大による影響が2023年12月期の一定期間まで継続するものと仮定して、固定資産の減損判定及び繰延税金資産の回収可能性等に関する会計上の見積りを行っております。

なお、この仮定は不確実性が高く、将来における実績値に基づく結果がこれらの見積り及び仮定と異なる可能性があります。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「持分法による投資利益」及び「為替差益」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書の組替えを行っております。この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において「営業外収益」の「その他」に表示していた267百万円は、「持分法による投資利益」18百万円、「為替差益」18百万円、「その他」230百万円となっております。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 事業構造改革費用

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

事業構造改革費用は、中国子会社にて事業構造改革の一環として実施した人員合理化に伴う特別退職金等であります。

※2 新型コロナウイルス感染症による損失

前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中国で実施されたロックダウンに係る労務費など235百万円を特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	縫製機器 &システム 事業	産業機器 &システム 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	39,350	19,097	58,447	130	58,577	—	58,577
セグメント間の内部 売上高又は振替高	438	87	525	233	758	△758	—
計	39,788	19,184	58,972	363	59,336	△758	58,577
セグメント利益	25	1,246	1,272	19	1,292	289	1,581

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業等を含んでおりません。
- 2 セグメント利益の調整額 289百万円には、セグメント間取引消去 △9百万円、各報告セグメントに配分していない全社損益 298百万円が含まれております。全社損益は、主に各報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用及び各報告セグメントに帰属しない為替差損益等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	縫製機器 &システム 事業	産業機器 &システム 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	27,448	17,150	44,598	171	44,770	—	44,770
セグメント間の内部 売上高又は振替高	513	54	567	251	819	△819	—
計	27,961	17,204	45,166	422	45,589	△819	44,770
セグメント利益 又は損失(△)	△1,530	△124	△1,654	34	△1,620	302	△1,317

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業等を含んでおりません。
- 2 セグメント利益の調整額 302百万円には、セグメント間取引消去 △29百万円、各報告セグメントに配分していない全社損益 332百万円が含まれております。全社損益は、主に各報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用及び各報告セグメントに帰属しない為替差損益等であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	中国	米州	欧州	その他	合計
縫製機器& システム事業	2,584	20,142	6,714	4,698	4,492	718	39,350
産業機器& システム事業	5,342	3,662	5,527	2,783	1,573	208	19,097
その他	130	—	—	—	—	—	130
計	8,056	23,804	12,242	7,482	6,065	926	58,577

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	中国	米州	欧州	その他	合計
縫製機器& システム事業	3,010	9,424	5,654	4,199	4,715	443	27,448
産業機器& システム事業	5,951	2,437	3,801	2,929	1,904	126	17,150
その他	171	—	—	—	—	—	171
計	9,133	11,861	9,455	7,128	6,620	570	44,770

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。